

# 優良産廃処理業者の育成と活用の推進に向けた取り組みについて

金沢市環境局環境指導課

## 1 はじめに

金沢市では、廃棄物の適正処理を推進し循環型社会を形成していくため、処理業者の人材育成と適正処理に対する意識の向上を図り、排出事業者が安心して処理業者を選択できる環境を整えるとともに、より多くの処理業者が優良認定を取得し、社会的評価を高めていくことにより、廃棄物処理業界がさらに活性化し、発展していくことを目指しています。

今回は、この取り組みの一環として平成 26 年度から実施している「優良産廃処理業者育成支援事業」について紹介します。

## 2 優良産廃処理業者の育成に向けたこれまでの取り組み

平成 26 年度に、排出事業者と処理業者との間で、それぞれの課題や展望について理解を深め合い、貴重な資源である廃棄物の循環利用を促進するとともに、処理業者の優良認定の取得の機運を高めることを目的に、第 1 回「資源循環型社会形成セミナー」を開催しました。

このセミナーでは、一部の排出事業者から優良産廃処理業者を選択するようになっているとの意見があったものの、優良認定制度の認知度はまだまだ低いものがありました。このため、処理業者の優良認定取得と適正処理に対する意欲向上に向けて取り組むとともに、排出事業者への制度周知など認知度向上に努めることとしました。

平成 27 年度から 29 年度にかけての 3 年間は、「優良産廃処理業者育成講習会」を開催し、産廃処理業者の人材育成及び適正処理に対する意識の向上を図りました。また、事業系ごみの適正処理に関するパンフレットを刷新し、排出事業者が集まる会議の場などで配布・説明しながら、優良認定制度の周知に努めてきました。

この結果、処理業者の意識は高まり、優良認定の取得

状況は、平成 30 年 4 月 1 日現在で 13 事業者 23 認定となりました。今後は、優良産廃処理業者の育成から活用の推進へとシフトしていくこととし、平成 30 年度に、改めて、排出事業者と処理業者との連携と協働について考える場を提供する事業を展開することにしました。

## 3 資源循環型社会形成セミナーの開催

以上の経緯を経て、平成 30 年 10 月、一般社団法人石川県産業廃棄物協会の協力の下、本市としては 2 回目となる「資源循環型社会形成セミナー」を開催しました。

今回のセミナーでは、排出事業者と処理業者との連携・協働を深め、廃棄物の適正処理の推進と民間主導のリサイクル体制の構築を目標に掲げました。具体的には、「排出事業者責任」を切り口にして、排出事業者、処理業者それぞれの現状や課題などについて理解を深め合うとともに、資源循環型社会の実現に向けた連携・協働のあり方について気付きを得られる機会とすることを目指しました。

セミナーには、排出事業者から 16 社 18 名、処理業者からは 11 社 17 名の合わせて 35 名の参加があり、まず「廃棄物の適正処理と資源循環の推進について」と題して基調講演を行いました。講演では、排出事業者責任を果たすために必要な廃棄物管理方法の要点が紹介されました。その上で、より良い排出事業者となるためには、企業における環境行動の必要性を認識し、PDCA サイクルを回しながら 3R の推進を実践していくことが重要であることが説明されました。また、排出事業者・処理業者は、双方をビジネスパートナーとして捉え、お互いに協力して適正処理、3R に取り組む必要があることについても講演いただきました。

基調講演の後は、5 グループに別れて「ごみを適正処理していますか？」をテーマにグループワークを行いました。冒頭に、講師から「結論を出すことが目的では

なく、立場の違うもの同士が同じテーブルで話し合いをする過程が重要であるので、結果にこだわらず取り組んでほしい。」というアドバイスを受けて、グループワークを開始しました。グループワークは、

ワーク1「廃棄物処理に関する現状・課題」

ワーク2「課題を解決するためには」

ワーク3「理想的なお互いの連携・協働のあり方」

という流れで進められ、排出事業者、処理業者が1つのテーブルについて双方の立場から話し合いました。

なお、話し合いをスムーズに進めるため、参加申込の際に事前アンケートを実施しました。「廃棄物の適正処理などに取り組む上での課題」や「処理業者または排出事業者に対する要望」のほか、排出事業者に対しては「廃棄物の処理委託の際に重視すること」、処理業者に対しては「排出事業者に対する情報提供やアドバイスの有無」について回答してもらいましたので、その内容も参考にしながら話し合いを進め、最後に各グループから話し合った内容を発表してもらいました。



発表では、排出事業者が抱える課題として、「廃棄物の分別が難しい」、「社内での分別への意識が低い」、「分別を徹底しようとする時間がかる」などが挙げられた一方、処理業者からは「分別されていないため処理コストが増加している」、「許可品目以外の廃棄物が搬入される」、「リ

サイクルだと処理コストが高くなり提案しにくい」という課題が挙げられました。

課題の解決方法については、「廃棄物の分別表を作成する」、「廃棄物の処理費用を視える化して分別の意識を徹底させる」、「処理契約を結ぶ段階で細かい打合せを行う」など排出事業者、処理業者各々の立場から意見が出されました。

これらの意見を踏まえた「理想的なお互いの連携・協働のあり方」として、「優良産廃処理業者が分別方法について情報を発信する」、「排出事業者と処理業者と共同して廃棄物保管場所を整える」、「工場見学などで排出事業者、処理業者の現状を理解する」などの取り組み方法が発表されました。いずれのグループにおいても、一歩進んだ取り組みを行うため、排出事業者、処理業者間の密接なコミュニケーションの重要性が感じられたようでした。

講師からは、「廃棄物の適性処理や減量化についての課題を解決していくには、排出事業者と処理業者との連携が重要であり、何か問題があれば行政からアドバイスをもらいながら取り組んでいって欲しい。」との総評をいただき、本セミナーは終了しました。

#### 4 おわりに

本市としてはノウハウも少ない中で開催したセミナーでしたが、セミナー終了後に実施したアンケートでは、概ね好評との評価をいただくことができました。また、約8割の参加者からは連携や協働による取り組みのきっかけとなるアイデアや気づきが得られたとの回答をいただいております。また、「異業種の方々との情報交換は大変有益であった」、「産廃処理施設の見学もしてみたい」、「産業廃棄物について考え直すきっかけになった」などの感想もいただきました。

今回のセミナーの経験を踏まえて、引き続き、排出事業者と処理業者の抱える課題が一つでも解消され、双方の連携・協働による民間主導のリサイクル体制が構築されていこう、工夫しながら取り組んでいきたいと考えています。